

社会関係資本が豊かな地域の条件とは？

地域の社会関係の豊かさ（社会関係資本）が住民の健康に寄与するという知見が増えつつある。ではどのような地域において社会関係資本は蓄積されているのだろうか。2003年に愛知県在住の高齢者9,414人を調査した結果、開発時期の古い居住地ほど社会関係資本は豊かであり、都市化度もまた社会関係資本の高さ／低さを規定する要因として認められた。他方で、近隣の建築環境（歩きやすさ）と社会関係資本の間には関連が見られなかった。社会関係資本の豊かさを考える上で、地域の歴史的・地理的文脈を幅広く考慮することの重要性が示唆された。

【連絡先】 埴淵 知哉（はにぶち ともや）
日本学術振興会特別研究員 PD / 立命館大学
E-mail: info@hanibuchi.com

背景 近年、地域の社会関係の豊かさ（社会関係資本）が住民の健康に寄与するという知見が増えつつある。そこで、地域における社会関係資本の規定要因を探る研究が求められている。本研究では日本の愛知県知多半島を事例として、近隣の歩きやすさ（Walkability）や居住地の開発時期（コミュニティの年齢）、都市化の度合いを、GIS（地理情報システム）を用いて客観的に測定し、それらの地域特性と社会関係資本の関連を探った。

対象と方法 分析には、AGES（愛知老年学的評価研究 Aichi Gerontological Evaluation Study）が2003年に実施した横断調査のデータを用いた。対象は、愛知県内の8市町に居住する65歳以上の在宅高齢者9,414人である。社会関係資本の指標として、一般的信頼感、互酬性の規範、地域への愛着、水平的組織への参加、垂直的組織への参加、友人との面会頻度の6つを用いた。地域特性の指標として、(1) 近隣の歩きやすさ（500m圏内における人口密度・交差点数・目的地数・公園の有無から作成）、(2) 近隣のコミュニティの「年齢」（旧版地形図から取得した住宅地の開発時期）、(3) 都市化度（都市圏中心との近接性を示す緯度）を取り上げ、ロジスティック回帰分析により社会関係資本指標との関連性を検討した。

結果 近隣の歩きやすさは、いずれの社会関係資本指標とも有意な正の関連を示さなかった。これは、歩きやすい近隣ほどインフォーマルな社会的相互作用が生じやすく、結果として社会関係資本を高めるという従来の仮説とは異なる結果であった。他方で、コミュニティの年齢および都市化度は多くの社会関係資本指標と有意な関連を示し、特に開発時期の古い地域ほど社会関係資本が豊かである傾向が確認された。都市化度と社会関係資本の関連は、指標によって方向が様々であった。例えば「友人との面会頻度」は、歩きやすさとは有意な関連を示さないものの、都市化度が高く、コミュニティの年齢が若い（開発時期が新しい）地域ほど少なくなる傾向がみられた（図参照）。

結論・本研究の意義 本研究では、GISにより客観的に測定された多様な地域特性と社会関係資本の関連性を明らかにした。欧米で提示されてきた「歩きやすい地域ほど社会関係資本が豊かである」という仮説は、今回の分析結果からは支持されなかった。むしろ、都市化の程度や居住地の開発時期との関連性が示されたことから、社会関係資本の規定要因を考える上では、一時点の身近な環境だけでなく、より広範な地理的・歴史的な文脈を考慮する必要性が示唆された。

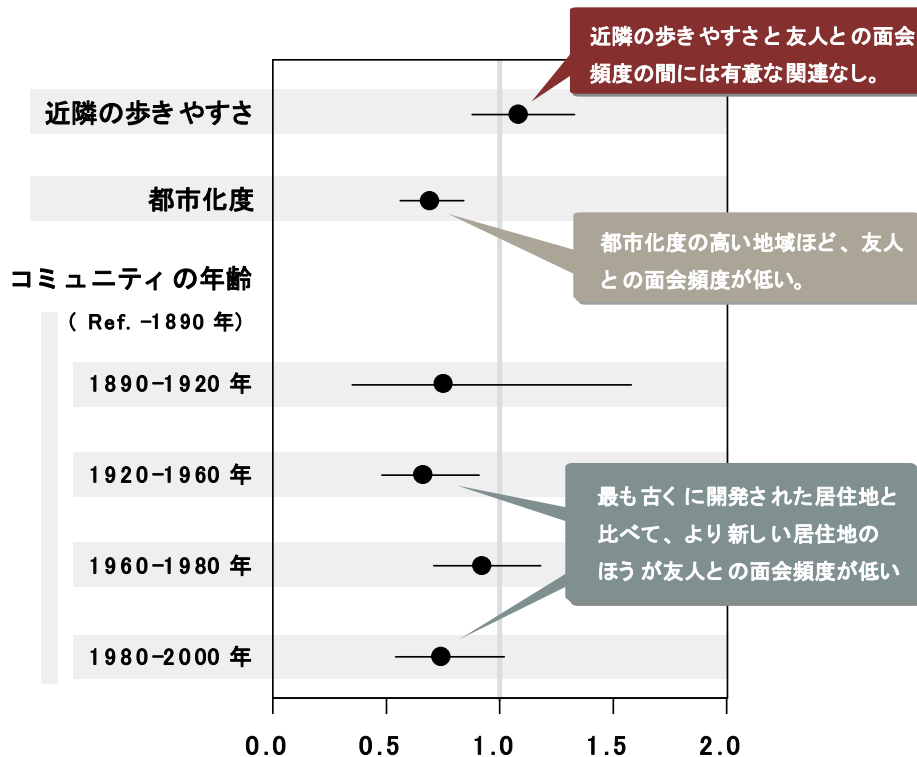
謝辞 本研究は科研費（特別研究員奨励費 21・6500）の助成を受けたものである。また、本研究で使用したデータは、日本福祉大学健康社会研究センターが実施した AGES（愛知老年学的評価研究 Aichi Gerontological Evaluation Study）によるものであり、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省）による助成を受けた。記して深謝いたします。

掲載論文

Hanibuchi T, Kondo K, Nakaya T, Shirai K, Hirai H, Kawachi I. Does walkable mean sociable? Neighborhood determinants of social capital among older adults in Japan. *Health & Place* (in press).

地域の特性と友人との面会頻度の関連

週1回以上会う(=1)に対するオッズ比 95% 信頼区間



* 年齢、性別、婚姻状態、教育歴、等価所得、就労状態、主観的健康感、居住年数を統制し、すべての地域変数を同時投入したモデルの推定結果